

2025 年 5月 12日

2024 年度自己評価委員会会議

出席者

憶 和男(学校長)

明永 龍騎(総務課, 教務課)：議長

木村 健人(企画広報課, 教務課音楽芸能スタッフ科)

稲吉 諒冴(教務課音楽アーティスト科)

姉川 光希(教務課音楽アーティスト科, 学生支援課デビューサポートセクション)

本田 裕紀(学生支援課キャリアサポートセクション)

中嶋 美優(事務局)：議事録

日時

第1回：2025年4月25日 12：30～14：00 8F 会議室 にて

第2回：2025年5月12日 12：30～14：00 8F 会議室 にて

議題

1. 評価10項目の点検評価及び、具体的な状況、課題、改善策

※ 参考資料：学生授業評価(2025年2月実施済)

2. 2024年度重点目標の達成及び取り組み状況

3. 2025年度の重点目標策定

◇評価項目◇

1. 理念・目的・育成人材像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生の募集と受入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域貢献

1. 理念・目的・育成人材像

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4
1-2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4
1-3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4
1-4	社会のニーズ等を踏まえた将来構造を抱いているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
・教育理念、目的、育成人物像を定め、学生配布物やホームページ等に明記することで、誰でも閲覧可能な状態としている。 ・関連企業から求められる人材、求められる知識技術を十分にヒアリングし、現代社会のニーズに合った目的と育成人物像を設定している。また、それらを学科毎に詳細に設定しているため、より専門分野に特化した内容となっている。同じ音楽芸能分野でありながら学科毎に適性の異なる職種を目指すため、この詳細設定は非常に的を射たものと自負している。 ・関連企業との連携により、業界のニーズを取り入れたセミナーや外部研修を随時実施。移り変わりの早い音楽芸能分野の最先端技術・知識を常に取り入れ学生に提供することを一番の特色としている。 ・社会のニーズに対応するため、分野別実習という学科を越えた選択授業を実施し、学生自らが将来像を描ける特色あるカリキュラムを準備している。 ・福岡という地域性を考え、様々な技能が幅広く学べるスタッフ総合コースの設置に向けてカリキュラムの整備を行うなど、地元業界のニーズに合わせたコース編成を常に行っている。		

2. 学校運営

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
2-5	理念・目的・育成する人物像に沿った運営方針を定めているか	4
2-6	運営方針に沿った事業計画を定めているか	4
2-7	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化し有効に機能しているか	4
2-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	3
2-9	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
具体的な状況、課題、改善策等		
・理念、目的、育成する人物像に沿った運営方針を職員会議によって定め、学科部署課毎に経費策定を行っている。全体像が見えたのち事業計画を定め文書化している。 ・意思決定機能については規則で明確になっていることと、現場で判断が必要なことの区分があいまいな部分があるため、改善を実施したが、更なる改善を目指す。 ・学校運営に必要な部署課として事務局、教務課、広報課、学生支援課等の組織を整備し、それぞれの役割を基に業務遂行にあたっている。 ・部署課毎に運営会議を毎週開催し、教具等の上申やイベント立案等の計画プレゼンテーションを経てそれぞれの会議内で意思決定している。 ・人事考課制度については、被評価者の納得感、課題の認識と目的意識及びモチベーションの向上を目標に改善を加えたが、今後も更なる改善を要する。 ・イントラネットを利用したネットワークシステムを構築し、県外の姉妹校を含め連絡事項やスケジュールの共有といった社内連絡をスムーズに行うことができている。 ・学生情報管理のシステムについては、県外の姉妹校と同一のシステムを導入しているが、各拠点のニーズに沿った運営が難しい部分もあるため、姉妹校間の更なる連携と実務に沿った運営体制の構築が必要である。 ・社内通信環境のインフラについては適宜見直しを行い、より安定した環境の整備に努めている。 ・学内ではGoogleアプリの「Classroom」を積極的に活用し、授業に関する情報を中心に、学生生活や就職、デビューに関する情報発信を行なっている。		

3. 教育活動

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
3-10	教育理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4
3-11	学科毎に修業年限に対応した教育達成レベルを明確にしているか	4
3-12	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4
3-13	教育課程について外部の意見を反映しているか	4
3-14	キャリア教育を実施しているか	4
3-15	授業評価を実施しているか	4
3-16	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3
3-17	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4
3-18	資格取得に関しての方針は教育課程で明確に位置づけているか	4
3-19	資格取得の指導体制はあるか	4
3-20	資格要件を備えた教員を確保しているか	4
3-21	教員の資質向上への取組を行なっているか	4
3-22	教員の組織体制を整備しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
・学科毎にディプロマ・ポリシーと教育目標を定め、それに基づきカリキュラムを策定している。 ・教育目的・目標に沿ったシラバスの策定を行っているが、担当教員によって内容の充実度に差が見受けられるため、策定における共通認識の強化や内容の確認体制等、更なる改善を図っていきたい。 ・学校評価委員会を毎年実施。それ以外でもインターンシップやオーディションなどで業界とのつながりを強化し、職員が教育界と業界をつなぐ努力を続けている。 ・授業評価について、学生へのアンケートを学科ごとに年2回程実施。学生のストレートな意見を収集し、講師へのフィードバック後、講師への指導やカリキュラムの改善を行った。 ・成績評価と修了認定基準を明確化し年度初めのガイダンスで学生に説明の上、データ共有し各基準に沿った運営をしてきた。 ・学生個人の試験時の技術力のみによる成績評価ではなく、授業内での技術の熟練度の向上の度合いを反映させた成績評価を行うために、成績評価における教員の共通認識を改めて策定し、落とし込んでいく体制を構築していく。 ・教員ごとに成績評価基準に不明慮な部分が生じないよう、成績評価システムの統一化を図っていく。 ・年間授業計画において知識技術のインプットとアウトプットが、綿密に練られたバランスで実行できている。期間毎に蓄積された知識技術の発表会を開催。教職員や保護者が学生の成長を確認できる環境を作っている。 ・資格試験の情報を全学生対象に告知する他、各コースに特化した資格に関しては授業内で対策を行うなど、資格取得率の向上に向けて指導体制を整備している。 ・教員の資質向上に関して、講師会の内容を見直したうえで定期的に開催。コース別で担当教員を集め、指導のノウハウを共有するなどの取り組みを行っている。		

・新任教員や教員の担当授業の変更があった際その他教員への告知を徹底する等し、教員間連携をさらに高めていきたい。

4. 学修成果

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
4-23	就職率の向上が図られているか	4
4-24	資格取得率の向上が図られているか	4
4-25	卒業生の社会的評価を把握しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
・今年度の求人数は392件、就職率は95%と高い水準をキープしている。 ・キャリアサポートセクションという専門部署からのGoogleクラスルームや各コースのホームルーム等を利用して、全学生へ求人案内を実施している。 ・インターンシップに関しては、継続的な企業との連携と関係の構築を図り、今年度は3件の参加となった。 ・学生には独自ドメインの個別メールアドレスを付与し、就職活動で活用することができる。 ・就職希望者全員に、就職に関する準備、スケジュール、注意事項等の詳細をまとめたオリジナルのキャリアガイドブック手帳を配布している。 ・卒業生のアーティスト活動状況や定職率を完全に把握することは難しいが、就職先の企業や所属先のプロダクションと連携をとり、卒業生の活躍情報の収集に努めている。 ・卒業生に対しても就職情報やオーディション情報を在学生同様に共有している。		

5. 学生支援

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
5-26	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4
5-27	退学率の低減が図られているか	4
5-28	学生相談に関する体制を整備しているか	4
5-29	留学生に対する相談体制を整備しているか	4
5-30	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
5-31	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
5-32	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4
5-33	課外活動に対する支援体制を整備しているか	4
5-34	保護者との連携体制を構築しているか	4
5-35	卒業生への支援体制を整備しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
・就職支援のキャリアサポートセクションと、デビュー支援のデビューサポートセクションにより、地域の情報収集はもちろん、東京、大阪に設置する姉妹校の求人情報、オーディション情報の共有を積極的に行い学生に向けてチャンスの拡大を図っている。 ・定期的に学生との個別面談を開催し、学生と教職員間で概ね良好な関係を築くことができている。学生から受けた守秘以外の退学等に関する相談事項は、教職員間で共有し改善に向けての対策を検討する体制がある。 ・コース担任制を導入し定期的なホームルームを実施することにより、学生と職員の密な関係性構築を図った。 ・教務に関するマニュアルを策定し、年間のスケジュールをもとに、短期スパンでの行動計画を立てて実行している。 ・授業巡回、欠席者への連絡及び保護者への連絡を通して、長期欠席からの退学者を出さないための取り組みを行ったが、今後も更なる施策を構築し実施していく。 ・ESP学園特待生奨学金制度という学校独自の奨学金制度を整備している。 ・学生には奨学金制度や修学支援制度などを説明するガイダンスを随時開催している。 ・年度始に全学生を対象とした健康診断を実施している。また学校医による診察を受けられる体制を整えているほか、学校医を通して必要に応じた医療機関の紹介等を行っている。 ・遠隔地から就学する学生に向けては、学生寮、学生マンション運営企業と業務提携して居住情報の提供に努めている。 ・学生の外部イベント実習やライブ活動、ボランティア活動については、公欠願を提出すれば出席扱となる制度を整えている。 ・保護者には教務課を通じていつでも相談できる体制を整えており、教務科からも逐一出席状況などを伝えている。また保護者には年間2回成績通知書を送付し、成績・出席率を共有している。 ・事務局にて保護者のメールアドレスを収集し、学校行事等の情報共有体制を整えた。 ・卒業生には教務課を通じて相談ができる体制を整えている。また希望者には求人情報の共有を行っている。オーディション情報についても公式LINEを通じて、希望者には適切な情報共有と支援を行っている。		

6. 教育環境

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
6-36	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4
6-37	学内外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4
6-38	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4
6-39	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
・実習授業で使用する機材に関しては同業界において、定番から最先端のものまで幅広く設置考えられる中で最適な環境を提供できている。 ・図書室に関して学生の要望に基づき冊数を増やしていくことで、興味に基づいた専門分野の学習支援を行っている。 ・教室数については、今後も定員充足率の向上を見込んでいるため、稼働率や授業運営上の効率を考慮しながらより充実した教育環境を整えていく。 ・イベントのスタッフ研修参加を中心としたインターンシップ制度を実施している。学生の大きな現場経験になるだけでなく、貴重な職業見学の場となっている。 ・今年度、外部イベント研修は学生対象で9回の実施であり、音楽芸能スタッフ科の学生総勢70名以上が参加した。昨年度の12回を下回る実施回数となったが、研修内容を精査し内容の充実度を図ったことにより、結果的に学生満足度の向上を図ることができた。 ・海外に設置している姉妹校への研修旅行及び韓国の芸能事務所が運営するスクールへの研修旅行を計画し、今年度は韓国への研修旅行を開催。学生にとっても有意義な研修となった。今後も世界情勢を見つつ、新たな学びの機会を提供できるよう努めていく。 ・安全管理に関する制度を定め、ファイル「安全管理等資料・防火管理等資料」としてまとめ職員全員が閲覧できるようにしている。今後も専任のスタッフを配置し、組織立てて更なる改善を行っていく。 ・火災防災組織を整備し年2回の避難訓練を実施、学生に向けた避難経路の確認と防火防災に対する意識付けを行っている。 ・危機管理委員会を設置し、事故・災害発生時の指示系統を明確に定めている。 ・各学科にて学内でのインシデント懸念事項のピックアップを行い、情報共有を行った。 ・全学生を対象とした学生災害傷害保険、学校としては学校賠償責任保険に加入している。また、インターンシップ賠償責任保険等必要に応じた保険に適切に加入している。 ・校舎内は可能な限り段差をなくし、点字ブロック、バリアフリースイッチ、エレベーター等を設置している。 ・定期的に学内の点検を実施し、安心安全な学校を維持している。		

7. 学生の募集と受入れ

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
7-40	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4
7-41	学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4
7-42	入学選考基準を明確化し適切に運用しているか	4
7-43	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4
7-44	経費内容に対し学納金を算定しているか	4
7-45	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
・学生募集活動の主要ツールとなる学校案内、募集要項等を作成し、学科毎の教育活動、学習成果等について明確に紹介している。また、ホームページでは学校案内以上の詳細内容を紹介し、あわせてSNSを積極的に活用することで学校生活におけるタイムリーな情報を発信している。 ・高等学校等の進路説明会へ参加し教育活動等の情報提供を定期的に行っている。 ・学生募集活動の重要な位置付けとなるオープンキャンパス開催に関して、開催回数の効果的な設定、体験授業の内容を充実させること、学校説明会の内容を充実させることを常に議論してきた。学校説明会・オープンキャンパスをオンラインで開催するなど、様々な方法で学生との接触の機会を増やしている。 ・オープンキャンパス開催時には必ず来校者アンケートを実施、オンラインにおいても、オンラインアンケートを実施し、次回開催に向けてアンケートの内容から問題点があれば検証し改善を行ってきた。 ・入学選考に際し、入学した後のミスマッチを防ぐためにも、作文や面接を通して入学生の志向性を確認する精度を高められるよう努めている。 ・入学に関しての選考基準を明確に定め、学校案内送付の際に同封する「募集要項」にて明文化している。募集要項に沿った運用を年間通して行ってきた。 ・社会のニーズに合わせて、募集状況を鑑み専攻や授業内容の変更を行っている。 ・現在の物価高が続く中、学納金は据え置いている。しかしながら、その中でよりよい学びの場を提供するためには学納金の見直しが必要となる可能性はある。学生の負担もしっかり考慮し、検討を続けている。 ・出願後の入学辞退者への授業料返還に関して、学校案内送付の際に同封する「募集要項」にて明文化している。		

8. 財務

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
8-45	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3
8-46	学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4
8-47	教育目標の整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4
8-48	予算及び計画に基づき適切に執行管理を行っているか	4
8-49	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	4
8-50	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し適切に運用しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
・自己資金で設備投資を行うなど、財務基盤は安定している。 ・継続的に財務分析を行ない、財務基盤の安定を図っている。 ・各部署から当該年度の予算を提出し、それらを精査する段階で事業計画との整合性を図り、編成したものを評議員会の諮問を経て、理事会の承認を取っている。 ・事業計画の予算に対して、決算で大きな乖離は生じていない。予算執行にあたっては上申書、立案書などを理事長が最終承認を行う体制を執っている。 ・監事による監査を実施し、理事会において報告が行われている。 ・財務情報を当学園ホームページに公開を行っている。		

9. 法令等の遵守

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
9-51	法令や専修学校設置基準等を遵守し適正な学校運営を行っているか	4
9-52	学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策を実施しているか	4
9-53	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
9-54	自己評価結果を公表しているか	4
9-55	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
9-56	学校関係者評価結果を公表しているか	4
9-57	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
・法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っている。 ・自己評価実施に関して学則に記載し専修学校の義務であることから、開校初年度より実施し公表している。 ・毎年学生アンケートを実施し、カリキュラムの構築や講師の指導等に役立てている。 ・学校関係者評価は「学校関係者評価報告書」としてホームページに掲載し、広く社会に公表している。		

10. 社会貢献・地域貢献

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
10-58	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-59	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
10-60	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
・ 県内高校の軽音楽部活動支援として校内ライブホールの使用提供、学生スタッフの協力等により、エンタテインメント業界を目指す高校生への支援企画等の開催を計画し、実施した。 ・ 学内に募金箱を設置し、募金活動により学生に対して社会貢献の意識付けを行っている。寄付金は2025年度に2024年度分と合算して子ども保護NPO法人等ふたつの団体に寄付を予定している。 ・ ボランティア活動が授業と重なる活動開催日となった場合は、内容を精査したうえで公欠として認め学生が参加し易い状況となっているが、学生の周知度は低い為、今後は新入生へのガイダンス資料であるEスタイルブックにも追記し、ガイダンス等で周知をしていく。今後は市や県共催のイベント等へ積極的に学生を派遣し、地域の音楽振興への貢献を図っていく。 ・ 高校からの要請により教育訓練としての楽器実技等レッスンを往訪・来訪にて再開。当校の持つノウハウを高校生に提供している。		

<自己評価実施概要>

- ・ 在校生アンケートの実施(2025年 2 月)
- ・ 自己評価委員会において 2024 年度自己点検を行う。(2024 年4月)
- ・ 2024年度の学園規則やカリキュラム修正等の反映について確認。(2024年 4 月)
- ・ 2024年度自己評価を取りまとめ内容確認及び承認を行う。(2025年 5～6月)

1. 学校の教育理念

◇建学の精神

音楽・楽器を創造することを通じて豊かな人格を形成し、さらに自己の可能性を追求する人材の育成。

◇教育の理念

建学の精神に基づき、エンタテインメントに関する高度かつ最新の知識や技術を修得し、感動を創造できる人材の育成に力を注ぐ。

2. 学校の教育目標

「卒業の認定に関する方針」の【教育目標に定める人材育成】から、以下抜粋事項を学科毎の教育目標と定める。

◇音楽アーティスト科

- 一、理論や類例を通じて得る知識量と反復実践において獲得するテクニックを包括し、エンタテイナーとして即戦力となりうる高度な技術力の習得
- 一、ワークショップや討議などを通じてエンタテイナーとしての美学や哲学など多様な感性を磨き、ステージにおけるケーススタディーを通じて観衆を魅了しうるパフォーマンス力の習得
- 一、専門分野における基礎課程を土台とした作品制作における技術や知識の組み合わせ、及び実験を試みながら新時代に対応しうる創造性やクリエイティビティーの習得

◇声優芸能科

- 一、声優、俳優の土台となる、発声法、発音法、呼吸法を基に美しい響きを持った正しい日本語で正しい情報を伝達することができる専門的知識と技術の習得
- 一、多くの戯曲と作品に触れ、創作を通して、脚本や創作意図を理解し解釈する力、自ら思考し役柄の個性を表現する力、他者に伝えるための演劇的な説得力の習得
- 一、様々なメディアに対応するための、歌唱、アフレコ、ダンス、殺陣、ナレーション等、それぞれの専門分野における基礎技術と応用技術の習得

◇音楽芸能スタッフ科

- 一、授業内で使用した様々な機器の名称、役割、正しい接続方法、基本的な操作技術の習得
- 一、授業内のグループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション等で学んだ音楽スタッフそれぞれの役割と演者との関係性を理解し、実践的なイベントにおいて活かすことのできるコミュニケーション能力の習得
- 一、様々な環境や条件を想定した授業を受講した結果として、いかなる場面においても音楽スタッフとして、それぞれの役割の上で臨機応変に対応できる能力の習得

3. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 職員の業務知識および熟練度の向上
- 成績評価基準をより明快に示し、各授業における到達目標の意識付けを行う。
ひいては業界に求められる高レベルな人材の輩出を目指す
- 卒業後の進路先としての外部企業・プロダクションとの繋がり・連携の強化
- 進級率 90パーセント以上
- 年間平均出席率 86.5パーセント以上

4. 評価項目の達成及び取組状況

- 職員の業務知識および熟練度の向上

会議での勉強会や体制の見直しによる業務の俗人化の減少など、主観的には成長及び熟練度の向上はみられるが、熟練度を図る指標となる進級率と出席率については数字には結びついておらず、目標は未達であったため、今後更なる改善と熟練度の向上が必要となってくる。

- 成績評価基準をより明快に示し、各授業における到達目標の意識付けを行う。

ひいては業界に求められる高レベルな人材の輩出を目指す。

各授業における到達目標については、講師との打ち合わせを重ね、シラバスの見直しを行うことでより明確に基準を定め学生へ示すことができている。今後はより評価基準の標準化に焦点を当て、講師によって評価基準にばらつきが生じないように改善の余地がある。また、教務科と支援課との連携も図り、研修等の現場での学生の評価なども授業に盛り込んでいくことで、より業界に求められる人材の輩出を目指していく。

- 卒業後の進路先としての外部企業・プロダクションとの繋がり・連携の強化

今年度は求人数も増加傾向にあり、学内での企業説明会の実施により、学生には進路決定に繋がる機会は提供できている。地域企業やレーベルの方々とも、より密な関係が築けている。

- 進級率 90パーセント以上

入学者数136名→進級者数112名（進級率85.7%→82.4%）

2年生進級者数102名→卒業者数95名（卒業率89%→93.1%）

進級卒業率**87.0%**

（2024年度は年度開始時点の入学者及び進級者、年度末時点の進級及び卒業決定者をそれぞれ合算した数字からパーセンテージを算出）

- 年間平均出席率 86.5パーセント以上
実績84.1%

5. 来年度、重点的に取り組むことが必要な目標や計画について

- 職員の業務知識および熟練度の向上
 - 生徒に対して成績評価基準をより明快に示し、各授業にて講師より到達目標の意識付けを行う。ひいては業界に求められる高レベルな人材の輩出を目指す
 - 業界や時代のニーズに即した教育環境の整備
 - 進級卒業率91.2パーセント以上
- ※2024年度の数字と比較しやすくするため、年度開始時点の入学者及び進級者、年度末時点の進級及び卒業決定者をそれぞれ合算した数字からパーセンテージを算出)
目標進級卒業者数269/4月在籍者数295×100=91.18≒91.2%以上